

代表 明日に向かって変わるまち菊川
市民ネット 質問者・倉部 光世



平成から令和へと時代も変わり15周年という節目に将来の菊川のありべき姿をみんなで考え、未来に向かってスタートするのはまさに今である。2025年問題。SDGsの目標年である2030年問題。行政サービス持続可能性の危機を迎える2040年問題。様々な課題がある中、幸福、健康、格差の是正などの面から考えると地方への分散型シナリオへ向かうことが持続可能性を高めるといわれ、人口減少が緩やかで、温暖な気候と好立地である菊川市は様々な可能性を考えることができる。

平成から令和へと時代も変わり15周年という節目に将来の菊川のありべき姿をみんなで考え、未来に向かってスタートするのはまさに今である。2025年問題。SDGsの目標年である2030年問題。行政サービス持続可能性の危機を迎える2040年問題。様々な課題がある中、幸福、健康、格差の是正などの面から考えると地方への分散型シナリオへ向かうことが持続可能性を高めるといわれ、人口減少が緩やかで、温暖な気候と好立地である菊川市は様々な可能性を考えることができる。

Q まちの未来を考えられる人材の育成のため財政、重要施策を積極的に市民に公開する必要性は。財政を考える市民会議の立ち上げは。

A 財政の市民理解は行政運営にとって重要なことと考えている。提案の市民会議や他自治体の取り組みを含め研究検討していく。

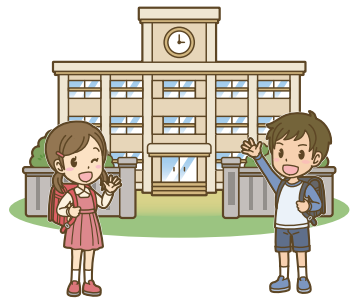
Q 活用方法の幅を広げるため利目的により会場使用料を発生させるなど公共施設や公共空間の使用の規制緩和の考えは。

A 公共施設については、設置目的に合わせ管理運営していくことが原則。食堂など施設の使い方は若手の職員から提案をもらいながら研究をしていきたい。

Q 将来の菊川市のあるべき姿、ありたい姿は。関係人口を増やす考え方は。

A 豊かな自然環境との共生と安全で快適な居住環境が実現された住みよいまちである。菊川市と多様に関わる「関係人口」の創出・拡大に力を入れていく。

Q まちを一つにするために行ってきたことは。未だ課題である浄



Q 小中一貫教育「学びの庭構想」は学舎運営協議会を中心として市民との連携も深めるとあるが現在の市民組織の見直しは。小中学区が統一されていない菊川地域への対応は。

A 学びの庭構想は、地域ぐるみで子ども達を支えると共に、教育環境の向上と地域全体の活性化を目指していくもの。協議会は、PTAや連合自治会、コミ協等代表も参画。組織の見直しは今後事業を進める中で必要に応じ考えていく。菊川地域は、小中、小小連携を工夫しながら進め、校区が統一されていない地域は、市民意見を尊重し丁寧に協議を重ねていく。

Q 研究機関との連携、大地の再生の考え方の取り入れ等、根本的な菊川市の地形から水害対策を考えることの必要性は。

A 近年都市化や風水害が激甚化する中、被害も大きくなると考えると、新たな視点で取り組みを考えていくことも必要。研究機関等との連携、専門家の知見を取り入れた水害対策など今後研究していく。

Q これから求められる、未来を切り開く構想力のある職員をどう育成していくか。

A 将来のあるべき姿の実現には職員の観察力や分析力、コミュニケーション能力を向上させる必要がある。研究テーマ創案・実践研修、選抜指名研修などに派遣し未来を創造する力を持った職員の育成に努める。

